

第5分科会

テーマ(児童虐待防止への取り組み - 地域との連携と保育所の役割)

会場(ロワジールホテル那覇 龍宮の間)

参加者数(49 人)

幹事: 沖縄県 おおな愛児保育園

座長団: 福岡県 あげぼの保育園 / 沖縄県 コスモ保育園

助言者: 長崎県 鈴田保育園 / 琉球大学 法文学部 人間科学科

意見発表者: 佐賀県 旭ヶ岡保育園 / 大分県 桃園保育園 / 沖縄県 美里保育所

記録: 沖縄県 長田保育園 / 沖縄県 童の城保育園



1. 意見発表趣旨

発表1 「テーマ：児童虐待への取り組み - 地域との連携と保育所の役割 - 」

「発表園：佐賀県 旭ヶ岡保育園」

研究の動機・ねらい

- ・児童虐待に対し、保育園のすべき役割とは何か？.....
- ・対処方法・どのような機関との連携を計るべきかを認識する。.....
- ・保護者への意識調査を行い、保護者への対応策を検討する。.....

研究内容

- ・アンケート...調査対象(保護者・保育士).....
- ・調査内容...子育て環境・子育て意識(保護者).....
- 気になる子の姿・保護者の姿(保育士).....
- ・関係機関との連携(鹿島市要保護者等対策地域協議会について).....

結果及び考察

アンケート結果によると、保護者は、子育てが「幸せ」だと感じていても生活に追われていて時間や気持ちにゆとりを持つことができない要因がある。保護者自身ゆとりを持つことができれば、子どもへの愛情やふれ合いをもっともつことができる。

保育園の役割として、親子のふれ合い、保護者同士が語り合う場を設けることが虐待防止の1つのきっかけとなるだろう。

発表2 「テーマ：児童虐待防止への取り組み - 地域との連携と保育所の役割 - 」 「発表園：大分県 桃園保育園」

研究の動機・ねらい

・保育園としての対応や県・市・関係機関との連携・機能性の強化について考える。

研究内容

・児童虐待に関する内容理解(制度・定義・種類・通告・ポイント・記録など).....
・「事例報告」兄弟の事例と保育園の保護者への対応とその後の小学校そして、.....
他機関との連携に関し、実践内容を発表した。

結果及び考察

保育園としては、問題がある児童に関しては記録を残しておく。その記録を児童相談所等に通告及び危険があるかもしれない打診等を行うこと。また、関係機関(保・幼・小学校等)との密な連絡を取り合い、卒園後のケアの連続性が重要となっている。しかし、子どもの安全の確保のための権利が限られているという実情が問題点となっている。

発表3 「テーマ：児童虐待防止への取り組み - 児童虐待防止の取り組みで、今何ができるか - 」 「発表園：沖縄県 美里保育所」

研究の動機・ねらい

子育て環境の変化に伴う児童虐待の問題が深刻化する中、保育所は児童虐待防止に何ができるのか、役割を考えることとなった。

研究内容

...入所児童と保護者の生活状況、子育てに関する悩み・しつけ・虐待などに関するアンケートを実施し、実態を報告する。

...アンケートの結果、子育てについて悩んでいることがわかり、手助けになればと、講演会を行う。

...沖縄市の児童虐待ネットワークを周知し、早期発見・対応につなげる組織形態を認識する。

結果及び考察

...アンケート結果からは具体的な子育ての悩みが出てきたり、しつけ・虐待に対する関心・意識の高さがわかり、子育ての手助けとして講演会を行った結果、保護者の反応は良く、子育ての意識に変化が見られた。しかし、参加人数が少なく、日時の調整や広報の方法を改善しながら次回へとつなげていく。回数を重ねていく事で、児童虐待防止として子ども達に今すべきことの意識を保護者・保育士共に向上させていきたい。

助言内容（全体助言として）

...事例として虐待の疑いがあった際、保育士より園長へ、そして保護者への声かけ・対応しながら見守りの連携を計ることで、保護者が心を開いていった。

...その他の取り組みとして、地域の婦人会や民生委員等と共に「子育てとなり組」「出前子育て」といった地域性で子育て支援を行うことで、近所の見守りに繋がるが、見守りの大切さとうらはらに個人情報保護法があり、難しい。

...保育園の対応として、意欲のある保護者に対しては、講演会や地域を巻き込んでいき、保護者への意識改革に繋げていく方向へ展開する。そうでない場合、児童相談所でも苦慮することもあり、保育園側の疲労度が増すのではないかな。

...親の自由時間を欲しがっている人には時間を作ってあげる。

...子どもは弱いだけの存在ではない。(米国の本「傷つきやすいこども神話」)

...親から貰えない心理的な栄養分は他者よりエネルギーを貰い、生きる力に出来る。

...対応としては、チームで対応する。ネグレクトで集まる情報はネガティブなものとなってくる。グレーゾーンを地域で扱うなら、ポジティブな情報も必要となる。スケーリングクエスチョンの方法で、1～10の程度の内、どの位思いがあるか具体的な形で褒めることが出来ることで信頼関係を構築することができる。

...保育士として見守ることのメリットとしては、少しずつポジティブな方向性に考えていくことで関係性がもてるようになる。バランスが大切。

2. 討議内容

討議のテーマ

(1) 児童虐待を防止するために保育所(園)でできることは何か？

～ 保育園で取り組めることは何か？

～ 他機関や地域との連携はどのようにすれば良いか？

討議のまとめ

Aグループ：発表内容のアンケート結果より相談相手としての保育士という項目に着目をした。

子どもに対する行為を実際に保護者にも体験させることでその痛さを知り、心を開き虐待をやめるといった事例があった。

保育士という専門性を生かし、保護者が担任保育士に言いにくい場合を察し担任以外でも対応しやすい体制をつくる。

行政のネットワークにつなげやすい環境作り。

講演会等を行い、実態を知らせるようにする。

Bグループ：保育園の取り組みについての発表

事例) 2歳・4歳児(母子家庭)の若年母親がネグレクト傾向のため、保育園側より母親に声かけ等を行い、今は良い方向になった。この場合、園より行政へ連絡しようとした時、近隣の通報で行政が介入した。園よりの通報のタイミングが難しいと感じた。

2歳児の別の事例で、初めて集団保育を体験するが、母親が自分だけで子育てを頑張らないといけない家庭で、顔に青アザをつくって登園するようになった。園側からの声かけにより、母親の気持ちも落ち着き、父親も園行事に参加するようになった。母親だけでなく、保育園とのコミュニケーションの大切さを痛感する。

園内で情報の共有化を図り、全体でしっかり見守ることが大切である。

地域・行政・家庭・保育園で連携していく。老人会・女性会等との交流等も大切である。情報の発信する場として保育園は重要である。

Cグループ：ネグレクトが気になる家庭があった。おなかがすいた時に食事を与えているので、食事は1日3食が基本であることを伝えた。

母親としての子育て観と保育士としての子育て観の違いがあるので、不安を聞く場をつくる必要がある。

父親の存在も大切である。父親参観や父親でなければ遊べないものなどを提案、実行している。

Dグループ：事例) 3歳児 母子家庭であり、育児放棄傾向にある。児童相談所で預かり、里親へ。月1回親元へ泊まる。今は落ち着いている。

しつけと身体的虐待の区別が難しい。

親もリフレッシュ時間が必要。しかし、親の都合より、子どもの世話を重視しなければならないのではないか。

防止の為には保育園の対応・判断が重要である。内容を隠すことも多く、表面化しにくい。

Eグループ：虐待の予防は継続的にする。すぐには解決できない。

講演会の参加人数が少ないのは、親が知らない人の中に入るのが嫌、内容が重いと推測される。

保育士だけでは力が足りないが、保護者の力で仲間づくりをした。实例として「おやじの会」がある。お父さん同士が集まった時に子育て相談し合うようになった。その後、母親からの要望で、お母さんたちのゆんたく会を作った。

ゆんたく(おしゃべり)することでストレス発散となり、コミュニケーションの場を提供することができた。課題として、来る人が決まっている。会が大きくなればなるほど、来て欲しい人が来ない。どうしたら良いのか。

助言内容

地域を取り巻く環境作りが大切。地域行事に保育園が参加するようにしている。講演会だけではなく、他行事に手伝いで参加できるようにする。

園長の姿勢が大切となる。

見えない子ども達からのシグナルに気づき、職員間での見守りや虐待に対して知識を深めることが必要。

仏教では目標が定まっていると方法は幾万もある。全体行事の運動会は親が来るが、保育参観や講演会には来ないのであれば、仲間作りが有効な可能性があり、この方法以外にも方法はある。0%の可能性なら他の方法を考えるが、自分の為なら父は動かなくても、誰かの為なら動く可能性がある。

思いを伝えることが苦手な人の場合、児童相談所に悪者役を担ってもらうのも1つの方法。園との役割分担で連携する。

カウンセリング的に待つのではなく、少しプレッシャーをかける。

体罰と虐待の違いについては、体罰はエスカレートしがちである。親が子どもの時、自分がされたことをする。体罰をすると、恐怖心をもたせ、有効ではあるが長い目でみて、良くない。

